

# NPOから 医療・福祉・医工学 への提言

特定非営利活動法人 先端医療福祉開発研究会 編



The Japanese society for Research and Development of  
Advanced Health Science and Welfare

# 在宅医療で役立つ鍼灸治療

中野朋儀（浦和専門学校・鍼灸学科）

## ● 在宅鍼灸医療の取り組みについて

「地域包括ケアシステム」として、重度な要介護状態になつても住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように「医療・介護・予防・生活支援・住まい」のサービスを受けられる支援体制のことです。鍼灸師が活躍できるのは、「医療・予防（介護予防）」であり「住まい」を考慮した「在宅（訪問）鍼灸医療」ではないかと考えます。

\* 地域包括ケアシステムとは、2025年に75歳以上の方々で重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる目的とした医療・介護などが一体となつたシステムです。

## ● 在宅鍼灸治療について

1. 在宅で鍼灸治療の要望の多い疾患（症状）は、①腰痛②膝痛③神経痛④慢性の疼痛などがあります。
2. 鍼灸治療についての問題は、①刺鍼時の痛みや内出血②治療効果が感じられない③鍼の本数が少ないとなつたシステムです。

い④電気治療（低周波治療）を使う・使わない⑥治療の目的などの説明不足などがあります。

3. 鍼灸治療費の取り扱いは、療養費か自費で介護保険の取り扱いはありません。
4. 在宅で鍼灸治療を進めるポイントは、①主訴の改善②QOLを踏まえながら治療を行う③状態（症状）の悪化やクレームの発生を防ぐ（リスク管理）ことなどがあります。
5. 鍼灸以外の問題点は、①体位変換を含む介助技術の必要性②意思疎通の難しさ③ご本人に限らずご家族や他職種とのコミュニケーションの必要性④各ご家庭や施設独自のルールを守る事⑤食事や入浴などサービス提供の優先順位⑤事前連絡の必要性⑥治療費の集金の仕方などがあります。
6. 鍼灸治療以外のトラブルは、①対人関係、コミュニケーションの問題②話し方、態度、声の大きさや、体臭などの匂い③関節可動域訓練などを依頼されることなどがあります。
7. 鍼灸の治療頻度は、①週1～3、月1～2回など②治療方法については、鍼のみ（置鍼散鍼）、低周波治療（電気治療）、鍼灸併用③治療時間は、20分～40分くらいです。

## ● 在宅鍼灸の実際について

- ・鍼灸治療希望者の基礎疾患について
- ・鍼灸治療（保険）の治療では、①脳血管障害②神経疾患③手術後の癌による痛み④変形性関節炎⑤椎間板ヘルニア⑥脳性麻痺⑦脊髄損傷などがあり、自費の治療では、①術後疼痛②関節の変形④椎間板ヘルニアなどがあります。

### ・お灸について

お灸治療での良い経験をお持ちの方が少なかつたり、良いイメージを持っている人が少なかつたり、艾の匂いや煙がダメだつたりする場合もあります。

### ● 養生費（保険）の適応疾患について

①神経痛（例えば坐骨神経痛）②リウマチ（指の関節などが腫れて痛むもの）③頸肩腕症候群（首から肩、腕にかけてしびれ痛むもの）④五十肩（肩の関節が痛く腕が挙がらないもの）⑤腰痛症（腰の痛み重だるさ、ぎっくり腰）⑥頸椎捻挫後遺症（首の外傷、むち打ち症など）などに限ります。現在、療養費（保険）支給条件は、適応疾患について病院または接骨院にかかっていなない事が原則です。また、医師の診断書または同意書が必要です。

### ● はり・きゅう治療についての説明について

・はり（鍼）治療では、治療に用いる鍼の太さは毛髪ほどで、全て使い捨てで衛生面でも問題はありません。刺す深さは症状や部位により異なりますが、皮膚に鍼を触れるものや筋肉まで刺入するものなどがあります。鍼を刺したときは何も感じないか、またはチクッと感じることがありますが、我慢しなければならないほどの痛みは通常生じません。

・きゅう（灸）治療では、皮膚に、直接お灸を置くもの（直接灸）と皮ふの上を温める（間接灸）がありますが、主に間接灸を使いますので、温かく心地が良く皮ふに痕（あと）が残ることはありません。

・はり（鍼）ときゅう（灸）の反応性については、治療後、一時的に体がだるくなることが希にあります。これは、運動後の疲労感のようなものです。このようなときは、からだをゆっくり休ませて下さい。これは一時的なものでほとんどの場合、1日で回復します。また、希に小さな内出血が起こることがあり、紫色から黄色くなつて1週間ほどで消えます。痛みが出たり腫れたりすることはほとんどありませんのでご心配ありません。

### ● 鍼灸治療の作用機序について

- ・組織や器官に刺激を与える事によつて、機能の調整をする。
- ・痛みや痙攣など、機能が異常に高ぶつてゐる状態を鎮静させる作用。
- ・鍼灸の治療によつて、血流を誘導して患部の血流を調節する。
- ・もともと生体に携わつてゐる内因性鎮痛機構（痛みをコントロールする生体内のシステム）を活性化することにより、脳内物質の働きや神経作用などによつて鎮痛効果が得られる。
- ・鍼灸治療により白血球やマクロファージなどの免疫に関わる細胞などが増え、生体の防御能力や免疫機能を高める。

### ● 銀イオン水の現在の用途

銀イオン水は、多くの商品などに広く使われています。